TV 報道検証【報道特集】　報告書

テレビ局： TBS	番組名：報道特集	放送日：2020 年 6 月 27 日

出演者：金平茂紀、日下部正樹、膳場貴子、宇内梨沙
小林哲郎（SBS 静岡放送記者）

検証テーマ： オープニング、西村大臣「方向性変えない」、東京都知事選挙
【特集】日米安保 60 年の岐路

報道トピック一覧

・九州北部で猛烈な雨
・オープニング
・東京都で新たに 57 人の感染者
・西村大臣「方向性変えない」
・アメリカ南部 16 州で感染者が増えていることに副大統領が注意喚起
・イギリスの人種の不平等がコロナで浮き彫り
・静岡県沼津市の女子大生刺殺事件で容疑者の男を現行犯逮捕
・自転車迷惑男を大麻所持で逮捕
・芸能人の愛人を探しているなどと持ちかける詐欺で男性を逮捕
・東京都知事選挙
・【特集】日米安保 60 年の岐路
・【特集】リニア新幹線と水問題の行方
・スポーツ報道

放送法第 4 条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨

・オープニング：

金平キャスターが「コロナ対策の専門家会議が廃止されることとなりました、なんとも唐突です。廃止が発表されたとき、専門家会議の責任者は別の場所で記者会見中でした。西村担当大臣からは何も知らされていませんでした、失礼ではないでしょうか、政府のコロナ対策の場当たり的な側面を象徴しているような出来事です。」とコメントしていた。このシーンに当てられた時間は 23 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・西村大臣「方向性変えない」：結論→特に問題なし

膳場キャスターの「昨日、国内の新規感染者数がおよそ 1 ヶ月半ぶりに 100 人を超えたことをめぐり、西村経済再生担当大臣は対応の方向性を変えることは考えていないと話しました。」とのコメントを受け以下に朱記したような VTR が取り上げられた。

"西村康稔（経済財政担当相）「感染者の数が増えているということについてはですね、積極的な集団検査を受けていただいている取り組みの結果の表れでもありますので、この数自体で今なにか方向性を変えるということは考えておりませんけれども、」

ナレ「西村大臣はこのように述べる一方で数字の分析を進めながら一層の緊張感を持って対応していきたいとしました。また、スーパーコンピューターの富岳や人工知能を活用し政府のこれまでの感染防止策を検証する考えについて初会合を来月一日に開くことを明らかにしました。」"

このトピックについて当てられた時間は 58 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・東京都知事選挙：結論→特に問題なし

膳場キャスターの「東京都知事選の投票日まで一週間あまりとなった今日、各候補者は週末の街に出て支持を訴えました。争点はやはり新型コロナ対策です。」とのコメントを受け以下に朱記したような VTR が取り上げられていた。

"ナレ「駅前で演説に立ったれいわ新選組の山本太郎氏。感染拡大で落ち込んだ経済立て直しの重要性を訴えました。」

山本太郎「お一人 10 万円ずつ給付いたします。自分の地元で徹底的にその消費を始めるならば東京都に 1.4 兆円、東京都内に 1.4 兆円のお金が流れ込むことになりますよ、それで底上げしていくんですよ。」"

"小池百合子「まずは喫緊の課題であります、新型コロナウィルス感染症対策、そして第二波への備え、最優先で取り組んでいきます。」

ナレ「現職の小池百合子氏は街頭演説には立たない方針で SNS やユーチューブを使い、オンラインでの選挙戦を展開しています。今日も夜に新たな動画を配信する予定です。」"

"ナレ「元日弁連会長の宇都宮健児氏は第二波、第三波に備えた体制づくりと補償政策の実現などを訴えました。」

宇都宮健児「医療体制を充実させる、自粛や休業に伴う補償を徹底する、こういう政策をまず第一に取り組んでいきたい。」"

"小野泰輔「小池さんが無風状態でそのまま再選されたらどうなりますか、みなさん、コロナも東京だけ抑えが効いていないと思います。」

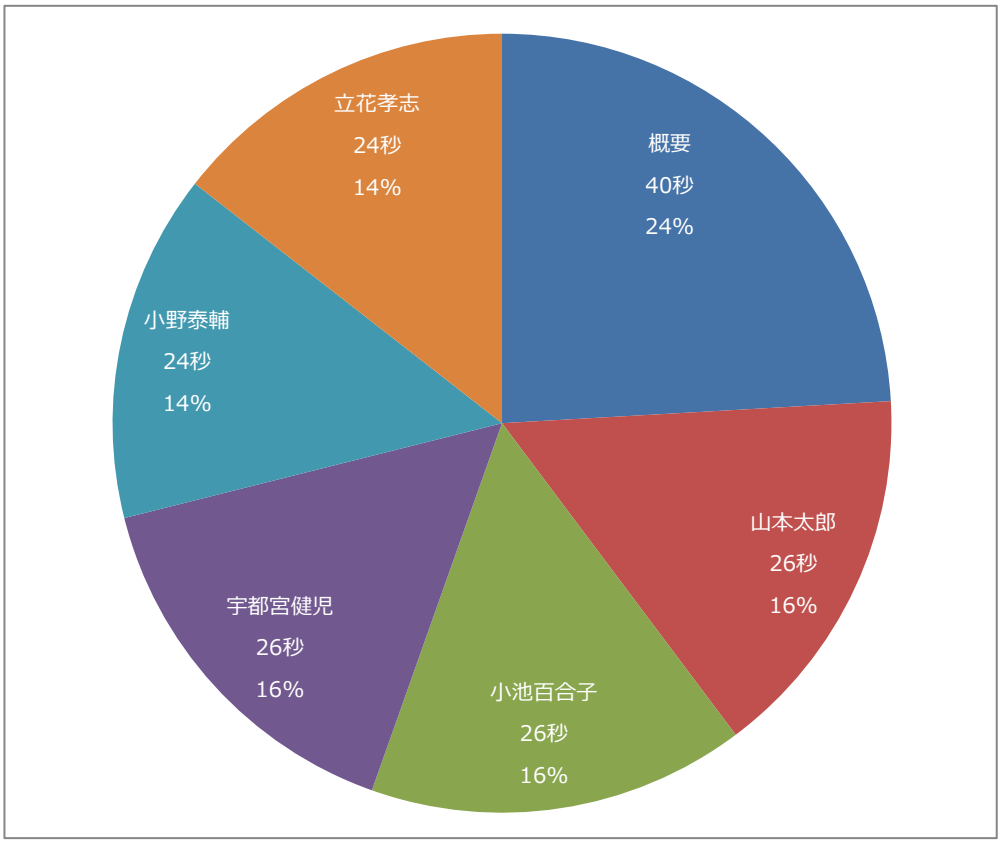
ナレ「熊本県の前副知事、小野泰輔氏は東京都のコロナ対策を批判した上で、大阪府の吉村知事のように都政を引っ張っていくと訴えました。」"

"ナレ「諸派で NHK から国民を守る党党首、立花孝志氏も都の政策を批判。」

立花孝志「一律にステイホーム、家に居ろ、たちまち経済が崩壊し、経済が乱れたその先には社会が混乱する、頭の言い、政治家を選ばなければいけないということです。」"

ナレ「このうち、立花氏を除く四人の候補者は今日午後四時からインターネット上での討論会に望みました。この他東京都知事選挙にはご覧の 17 人が立候補しています。過去最多の 22 人が立候補している今回の選挙、投開票は来月 5 日で即日開票されます。」

このトピックについて当てられた時間は 166 秒で概要および各候補の主張を取り上げる部分に当てられた時間の配分は以下の通りだった。



・【特集】日米安保 60 年の岐路：

膳場キャスターの「さて特集は、イージスアショアの配備断念や、再び議論され始めた敵基地攻撃論など、安全保障について考えます」というコメントおよび金平キャスターの「おりしも今週、改定日米安保条約の発効から、60 年を迎えました。盾と矛に例えられてきた、日米関係はどう変わっていくのでしょうか？」とのコメントを受け、以下に朱記したような特集の VTR が取り上げられていた。

河野太郎防衛相「イージスアショアの配備のプロセスを停止をいたします。」

ナレ「河野防衛大臣は、突然新型ミサイル迎撃システム配備計画を提示すると発表した。計画撤回ではなく、呈したと繰り返したことで混乱が広がった。」

日下部「こんにちは」

ナレ「今週、水曜、イージスアショア配備予定地とされた山口県萩市では、住民らが計画反対のチラシを配っていた。」

"撤回を求める住民の会　森上雅昭さん「いまでも、こうやってやっているのは、みんなまだ不安なんですよ。」

記者「 なんでですか？」

森上さん「本当なのかと。表現が停止でしょ。一時停止で信号が変わったらまた発進するんかというような、 中途半端な、あの、声明でしたから。」 "

ナレ「不信の源は、これまでの防衛省の対応にある。計画提出の理由とされた 迎撃ミサイル発射の際に落下するブースターについて、去年 12 月の説明会では、」

防衛省担当者「 ブースター落下区域の中に落とすことを考えております。 」

参加住民「これはメートルで言うと何メートル の範囲でしょうか？」

防衛省担当者「それはですね、具体的な数字というのは、なかなかアメリカとの関係もあって言うことができないんですが、どれぐらいの範囲で落ちるかとかそういったこともミサイルの機能性能に関わることでございまして、大変申し訳ございませんけれども、お答えは差し控えさせていただきます。」
参加した住民「そういうことが基本的に私たちの不信感に通じているのかなあというように思いますが、」
ナレ「そして、おととい、自民党の会合で河野大臣は、配備を断念したことを明らかにした」
河野大臣「こうした事態にいたりましたことを深くお詫びを申し上げます。」
ナレ「配備、断念を地元の住民はどう受け止めたのか。配備予定地だった自衛隊むつみ演習場のすぐ隣で白菜やレタスを栽培している白松博之さん。」
白松さん「まあ正直言って、非常に急な事で、私どもも非常に面食らったところはありますけれども、これでこれからもずっと野菜作りができるなっていうのは、最初に思いました。」
ナレ「計画では、農地の真上にレーダーが照射されることになっていたことから、農家を辞めようと考えていた。」
白松さん「防衛ということが最優先されてて、そこに住んでる住民は、もしかしたら日本人扱いじゃないのかなって。私も以前はやっぱり自民党員だったんで、国がやることだから私どもは我慢しなきゃいけないのかなと言う思いでいたと。当然、この話が出てからは、自民党員は私は、やめました。もっと地域の人たちと一緒に、行動すべきだなという思いではいおりました。」
（CM）
ナレ「実は者を断念した理由は、ブースター以外にもあるのではないか。こう話すのは、 元自衛艦隊司令官合田ようじ氏だ。」
海上自衛隊元自衛艦隊司令官香田洋二氏「わし自衛隊の OB ですから、非常に厳しい言い方でも心苦しいんですけども、防衛省としては、やはり原点に戻って、勇気を持って、リセットするということができなかった。」
ナレ「香田氏が断念の理由として考えているのは、2 年前のレーダー選定だ。防衛省はアメリカで採用されたものとは、別の企業のレーダーを選んだ。」
香田氏「レーダーと武器管制システムとミサイルというアメリカその三つをパックで開発してきたんですね。レーダーだけをすげ替えるんですけども、これは日本特有のものになるんですね。ということは開発を全て、日本の負担でやらなければならないという、当初想定していなかった状況が出てきたわけですね。レーダー自体の性能試験、試作品の製作、それからシステムとしての総合試験。それからミサイルが最終的に迎撃できるかという総合試験の、大きな開発に伴う負担というものについて、国民に対する説明もありませんでしたし、実は私は今回、中止をした一番大きな理由は、ここにあると思ってます。」
ナレ「香田氏はイージスアショア自体は必要だと考えている。」
香田氏「究極の最悪のシナリオというのは、弾道ミサイルが東京とか大阪に落ちること。それをやらせないのが政府の責任ですよね。最悪の事態。そのためには防御システムであるイージスアショアというのは必要なんです。」
テロップ「敵基地攻撃論の是非は・・」ナレ「海上自衛隊のトップヤマムラヒロシ幕僚長。配備撤回が発表された後も、イージスアショアの必要性を強調している。」
山村浩海上幕僚長「24 時間 365 日、ずっといつも見ているということにつきましては、イージス艦パック 3 だけじゃなく、もう一つのものがあった方が、我が国のミサイル防衛は万全になると、イージスアショアと思っておりますんで、」
テロップ「再び注目されるイージス艦」ナレ「ミサイル防衛で改めて注目されるのが、イージス艦の存在だ。」
ナレ「今年 3 月、7 隻目のイージス艦まやが進水した。八隻目のはぐろも装備などを整えつつあり 、今年度中に目標としていた、イージス艦の 8 隻体制が完成する。 史上最強の護衛艦と言われるイージス艦。スパイレーダ

ーで半径 500 km 以上、 360 度どの角度からの招待も瞬時に捕捉。10 以上の目標へ、同時に攻撃が可能だ。」
元防衛省情報分析官　伊藤俊幸海将「そうですね。まったく他の軍艦とは別物といっていいぐらい、優れた。 特に飛んでくる物を落とすと言う力は抜群の力ですね。」
ナレ「日本初のイージス艦こんごうの初代艦長本多宏隆氏。イージス艦を知り尽くした人物だ。」
本多氏「あのはっきり言ってですね、 関門海峡をふっと出て、そしたらもう、朝鮮半島の上とか、あの辺飛んでる飛行機は全部わかります。」
ナレ「アメリカの、空母護衛を想定して導入されたイージス艦だが、ある事件でその任務が大きく変化した。１９９８年、北朝鮮の弾道ミサイルが、日本列島を飛び越えて三陸沖に達したのだ。」
本多氏「よくあそこまでいろいろ打ち上げるようになったなと思うんですけどね。」
ナレ「衝撃の大きさから、しばらくこの事実は秘匿された。事件を契機にイージス艦の任務は、弾道ミサイルの迎撃に大きく舵を取った。」
ナレ「イージス艦きりしまの心臓部、 CIC、 戦闘指揮所だ。スクリーンに朝鮮半島がくっきりと浮かび上がる。」
ミサイル迎撃訓練「弾道ミサイルが発射されました。対 BM（弾道ミサイル）戦闘用意。 対 BM（弾道ミサイル）戦闘用意。弾道ミサイルは、日本本土へ向け飛翔中です。司令部から迎撃命令発令。弾道ミサイルの迎撃を行います。対 BM 戦闘 SM３攻撃始め。発射 5 秒前、３、２、１、SM３発射。」
ナレ「この訓練を繰り返しながら、イージス艦きりしまは、150 日以上、日本海で迎撃態勢をとり続けた。」
伊藤氏「 じっーーとまってる状態です。これ人間は本当に疲れるんですよ。」
ナレ「イージス艦は一年に 1 回、2 ヶ月間の定期点検を受ける。これは報道特集のカメラがとらえた造船所でのイージス艦の姿だ。洋上での過酷な任務を裏付けるように、船体には大量の貝殻などが付着していた。付着物を落とさないと性能に影響が出かねない。作業は深夜にまで及んだ。」
ナレ「中国の海洋進出を睨んで、防衛省はさらにイージス艦の建造に着手したい考えだ。イージスアショアの配備撤回は、日本の安全保障政策の見直しを責めることとなった。」
ナレ「そこで、改めて浮上したのは、敵基地攻撃論だ。安倍総理は先週の会見で、」
記者「自民党内などでは、敵基地攻撃能力の保有を求める声も出ておりますが、この点、総理いかがお考えでしょうか。」
安倍首相「当然この議論をして参りますが、例えば相手の能力がどんどん上がっていく中においてですね、今までの議論の中に閉じこもっていていいのか、という考え方のもとにですね、自民党の国防部会等から、提案が出されています。」
ナレ「弾道ミサイルの発射基地を、ピンポイントで破壊する、敵基地攻撃能力。おととい自民党の会合でも議論された。」
自民党小野寺五典元防衛相「やはり、あのこちらから、ミサイルを食い止めるための、様々な抑止の考えかた。これも必要だと私でも思っております。」
ナレ「政府は今後、敵基地攻撃能力の保有の是非も含めた新たな安全保障政策について、議論を進めることとなった。」
ナレ「中谷元元防衛大臣に話を聞いた。」
膳場「イージスアショアに変わる新たなミサイル防衛ってどういうものなのか。」
中谷元防衛相「やはり打たせないということが必要なんです。 自分の身を守るにはですね、抑止力　というですね、打たせないだけのやっぱり反撃能力を持っていると相手も襲い掛かってきませんので、そういったことも、それは、専守防衛ですね、やっぱり一つではないかということで、」

ナレ「中谷氏は抑止力として、敵基地攻撃能力を検討すべきと主張した。」
映像音声「調印式の日、1 月 19 日の朝は静かに開けました。 」
ナレ「1960 年に調印された改定 日米安全保障条約。今週発効から 60 年を迎えた。調印の後、全国で安保闘争が起きた。この 60 年、アメリカ軍が他国への攻撃を担う矛。自衛隊が専守防衛の盾という役割分担がなされてきた。敵基地攻撃能力の保有論は、日米の盾と矛の関係を見直す議論に繋がっていくのだろうか。」
膳場「日米 の役割分担を見直すというような必要性は感じてらっしゃいますか？」
中谷氏「そうですね、もうアメリカ自身からですね、日本は自分のことはですね、自分でやったらどうかと。特にトランプ大統領も、そういうことあからさまに言い始めました。従来の盾と矛というのではなくて、やはり日本に必要な防衛、の部分に関しては、日本自らが、やっていかなければいけない情勢にですね、なっているんじゃないかと思います。」
ナレ「一方、香田氏は、日本が敵基地攻撃能力を持っても、抑止力にならないと言い切る。」
香田氏「我が国の政府の解釈いうのは、切羽詰まった段階で、敵がまさしく我が国を攻撃する場合に限り、敵基地を攻撃するということで、一気呵成に相手の反撃能力をゼロにするということじゃないと思うんです。敵基地攻撃が虎の尾を踏むようなことになりますと、逆に日本が噛まれてしまう。すなわちこれは抑止力にならないということなんですね。」
ナレ「日本を射程に収める北朝鮮のミサイルは、およそ５００発あると言われ、一部の発射基地を攻撃しても、核ミサイルで反撃されると、香田氏は話す。また敵の基地を攻撃するためには、その場所能力などの、情報を正確に正確に把握する必要があるが、現在日本にはその能力が全くない。という。」
香田氏「精度をいかに保証するかという指揮管制情報というものが、8 割 7 割なんです。そこは我が国は一切ありません。それを、戦後 70 年近く、自衛隊は全く手も付けていないところを、朝鮮半島の我が国の情報収集能力はどうですか。スパイはいますか。いないですよね。せいぜい今衛星だけですよね。しかし何かあると、アメリカは沖縄に情報収集機を集めて、毎日飛ぶ。そして携帯電話から通常の軍事通信。暗号。それからトラック一台一台の動き。それで衛星からの情報、スパイ、そういうそれから一般情報も含めてですね、これがないと機能しないんです。ここまでやるという覚悟がありますかということですね。」
（CM）
テロップ「沖縄の基地問題でも見直し論」ナレ「安全保障政策の見直し論は、沖縄の基地問題でも。」
金平「え一私の目の前に広がっている、名護市辺野古の新アメリカ軍基地建設現場ですけれども、軟弱地盤が埋めたて海域に見つかるなど、建設計画そのものの見直しが、迫られているにもかかわらず、日本政府は沖縄県民の民意を無視するような形で、工事を強行しています。」
金平「辺野古の浜ですけども、こんにちは。ガン無視されましたけれども、警備員はこういう」
ナレ「中谷元防衛大臣は、辺野古移設について、」
中谷元防衛相「ここへきて、この軟弱地盤が出てきて、私も、その後報告を受けたらですね、 承認されてからあと 12 年もかかると、費用も 9300 億円になっちゃうと。そうなりますと、普天間の返還が、2030 年後半ですかね、どんなに急いでも。それで今工事の見直し申請を出してますけど、わたしは今がチャンスだと思うんですね。どうせ造るなら、そこにですね、そこに自衛隊も、それから文民が使える民間の飛行場もですね、併せて作った方が、コストをかけ、時間をかける以上ですね、いいんじゃないかと思いますが、 まあこれは個人的な思いですから。」
ナレ「沖縄県の玉城デニー知事に聞いた。」
金平「自民党の内部からそういう見直し論が出ていることについてはどういうふうにお考えですか？」

玉城デニー知事「とにかく今は変化が求められていると思うんですね。 そうするとその変化の中で、唯一変わらない計画が、辺野古だとすれば、そのことも全て、もうその、変化の前提に置かなければならないと、 物事に固執することは、そもそもありえないと言うことの、よりリアルさが、自民党の中にも、起こってきたのではないかと言うように受け止めたいですね。」

金平「政府がそのイージスアショアの配備計画ですよね。 停止しましたですよね。」

玉城デニー知事「そのイージスアショアと同じように、私はこの無謀な工事は直ちに中止をし、断念すべきかというように思います。」

VTR を受けて、スタジオでは以下に朱記したやり取りが繰り広げられた。

膳場「イージスアショアを振り返ると、2017 年の 12 月、年末ですね、北ミサイルの脅威を理由に、閣議決定というスピード決定から始まっているんですね。そしてあのブースターの落下問題や、レーダーの開発問題が積み重なって、今回の断念に至ったと。拙速な議論に国民が振り回されたわけですから、この間の経緯を検証して明らかにするのが政府の責任じゃないでしょうか。先日の総理の会見以来、敵基地攻撃論に目が向いていますが、まずはイージス・アショアの断念の検証をするのが筋じゃないですかね。」

日下部「安全保障とは軍事とか兵器のことだけじゃなくて、外交、通商、時によってはですね文化とかスポーツ交流も立派な抑止力になるわけで、こうした総合的なバランスの上に成り立つのが、安全保障で、拙速とか場当たり的なものではあってはいけないんですね。特に敵基地攻撃論というのは、戦後の日本のあり方を、根本的に変えてしまうかもしれない。元自衛艦隊司令官の香田さんも、いうところのね、覚悟、相当な覚悟を持ってこの問題に当たらなくてはいけなくて、決して安易な扱いはしてはいけないと思いますね。」

金平「あの沖縄のね、辺野古の基地建設については、アメリカ議会のですね、会員の軍事小委員会が、軟弱地盤にですね懸念を指摘して、国防総省に対して報告を求めるという異例の動きが出てきています。 イージス・アショアの断念とですね、まるでこう、すり変わるような感じでね、敵基地攻撃論というのが登場してきてるわけですけども、 VTR で聞かれたようにですね、敵基地攻撃論は、専守防衛の一つだってそういう主張がですね、海外で通用すると本当に思われているのかという風に私は思いますけどね。」

このトピックについて当てられた時間は秒だった。

VTR は広範に取材がなされたものであったが、スタジオでは敵基地攻撃論については反対一色の論調であった。これでは、いくら VTR の質が良くともスタジオの議論が偏っているため放送法第四条一項二号の「政治的に公平であること」に照らして問題のあるものと言わざるエオないだろう。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特に問題なし

検証者所感

・【特集】日米安保 60 年の岐路

日下部キャスターはスタジオで「安全保障とは軍事とか兵器のことだけじゃなくて、外交、通商、時によってはですね文化とかスポーツ交流も立派な抑止力になるわけで、こうした総合的なバランスの上に成り立つのが、安全保障で、拙速とか場当たり的なものではあってはいけないんですね。特に敵基地攻撃論というのは、戦後の日本のあり方を、根本的に変えてしまうかもしれない。元自衛艦隊司令官の香田さんも、いうところのね、覚悟、相当な覚悟を持ってこの問題に当たらなくてはいけなくて、決して安易な扱いはしてはいけないと思いますね。」とコメントしていた。確かに安全保障は軍事や兵器のことだけではないというのはわかるし、外交、通称も抑止

力になるというのも理解できないこともないが、文化やスポーツ交流が抑止力になるというのはどういうことなのだろうか、こちらは例示してもらわないとピンとこないのではなかろうか。

また、「特に敵基地攻撃論というのは、戦後の日本のあり方を、根本的に変えてしまうかもしれない。」と日下部キャスターは述べていた。ところで前の総選挙では「しがらみのない政治」というキャッチフレーズが随分と受けていたようだが、「戦後日本の在り方」というのもある種の「しがらみ」と言えるのではなかろうか。こうした「しがらみ」にとらわれない合理的な議論というものに対して現代の日本人はどう反応を示すのだろうか。ここは興味深いところである。

金平キャスターの「VTR で聞かれたようにですね、敵基地攻撃論は、専守防衛の一つだってそういう主張がですね、海外で通用すると本当に思われているのかという風に私は思いますけどね。」というコメントについてであるが、それを言ってしまっては「自衛隊は軍隊ではない」という主張が海外で通用するのかということについても十二分に疑問であるが、そのあたりはどう考えているのだろうか。